

平成23年度事業報告

平成23年4月 1日から
平成24年3月31日まで

1 事業の成果

○ゴールを明確にしました。

インスリンの補充が必須な患者とその家族一人ひとりが希望を持って生きられる社会を実現することを目指していますが、日本IDDMネットワーク法人化10周年・1型糖尿病研究基金設立5周年記念シンポジウム開催を契機に、最終ゴールは、2025年に1型糖尿病を「治らない」病気から「治る」病気にするにとしました。

○日本IDDMネットワークの3つの約束

平成22年度に“救う”“つなぐ”“解決”の3つの約束を掲げました。平成23年度の主な取り組みは以下のとおりです。

○“救う”－患者と家族の皆さんに私たちの経験を還元します。

患者・家族会への助成金の交付、20歳以上の患者支援策実現等に向けての政策提言、学校・幼稚園等での説明用パンフレット、血糖測定器等を入れる「キティちゃんポーチ」及び1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアルPart1～4の配布、電話・メール等での相談対応、ホームページのリニューアル、会報の発行などに取り組みました。

特に政策提言では、配偶者控除制度は平成24年度は存続することになりましたが、20歳以上の患者支援策や介護職員によるインスリン注射の法整備は実現には至りませんでした。人手不足で十分なロビー活動ができませんでした。次年度はこの取り組みを強化したいと考えています。

また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、3月12日以降様々な情報提供と被災地からの個別の要請に対応しましたが、当法人が支援活動を行う団体としての認知度や支援体制も弱く、課題を残しました。一方で地域患者・家族会同士が協働して大規模災害に備える機運が生まれ、当法人では他の疾病団体との協働による支援活動に向けて準備を開始しました。次年度は東日本大震災対策のために寄せられた寄付金等を財源に東日本大震災の教訓を本にして、今後の大規模な災害に備えることにします。その前段として、1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアルPart3（災害対応編）の改訂作業を行いました。

新たな取り組みとしては、患者の祖父母向けマニュアルを作成・配布し、1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアルPart5（患者・家族体験編）発行に向けての本格的な作業に着手したところです。

なお、ホームページはかなりの情報量があり、リニューアルはまだまだ未完成の状況です。

○ “つなぐ”

－患者・家族と研究者、医療者、企業、行政、そして社会とつなぎます。

インスリンポンプとカーボカウントのセミナーはほとんどの会場で開催日前に定員に達し、出席者の過半数が医療関係者でもあることから、確実に医療・療養環境の充実につながっていると認識しています。

また、村上龍氏（作家・映画監督）が編集長を務めるメールマガジン JMM（約10万人に配信）で井上龍夫理事長の連載「『治らない』から『治る』へ」がスタートし、1型糖尿病の周知につながったものと考えます。

さらに、門脇孝東京大学医学部附属病院長をはじめとして日本糖尿病学会の先生方との連携を確認できました。

○ “解決”

－研究者の方々に研究費を助成し、1型糖尿病の根治への道を開きます。

1型糖尿病の治療につながるあらゆる先進的な研究を支援する「1型糖尿病研究基金」が200万円を超えましたので、4回目となる研究費助成の公募を開始しました。

東日本大震災で延期していた、日本1DDMネットワーク法人化10周年、1型糖尿病研究基金設立5周年記念シンポジウム『1型糖尿病 2025年「治らない」から「治る」へ』を、1型糖尿病を「治る」病気に変えようとしている皆さんとともに開催し、2025年の根治に向けて本格的な行動を展開することとしました。

このシンポジウムをはじめ、阪神タイガースの岩田稔投手の1勝10万円寄付等もあり、本年度の1型糖尿病研究金（以下「研究基金」）には2,550,321円という過去最高の寄付がよせられ、平成24年度、25年度と初めて2年連続の研究費助成が可能となりました。

こうした寄付に対し税制優遇措置が受けられる認定特定非営利活動法人になるための準備を開始しました。認定をうけるための基準として3000円以上の寄付者が年平均で100人以上であることが求められていますので、全国各地で開催したイベントで3000円以上の寄付を呼びかけたところ、108人の方から443,500円の寄付を頂戴しました。次年度の早い時期に所轄庁に対し認定申請を行います。

また、全日本社会貢献団体機構様の助成金（150万円）により、ノーモア注射募金活動を新たに開始することができました。

その募金の主なメニューは以下のとおりです。

(1) マンスリーサポーターの募集 <http://japan-iddm.net/donation/>

1口2,000円以上を毎月口座から引き落とし、研究基金に繰り入れます。

※2,000円は、ひと月のインスリン注射費用の概ね半分に相当します。

(2) 希望の本プロジェクト http://japan-iddm.net/book_prjct/

株式会社バリューブックス様と協働で家庭や職場で不要になった本を回収し、本の買い取り相当額が研究基金への寄付となります。

(3) 書き損じはがきの回収 http://japan-iddm.net/postcard_project/
家庭や職場にある「書き損じはがき」を回収・換金し、研究基金に繰り入れます。

(4) JustGiving Japan (オンライン上のチャリティプログラム) での” ノーマア注射2025プロジェクト” <http://justgiving.jp/c/7960>

エアロビック日本代表の大村詠一選手等が様々なチャレンジを通して研究基金への寄付を呼びかけています。

さらに、前年度から引き続き、コーズ・リレーテッド・マーケティング (商品の売り上げの一部を寄付する) で、株式会社ドウゾ様、エクセルエイド少額短期保険株式会社様、有限会社プレシヤス・アイ様、株式会社伊藤園様、東京コカ・コーラボトリング株式会社様から研究基金にご協力をいただきました。

平成23年1月に発足した『1型糖尿病「治らない」から「治る」— “不可能を可能にする” —を応援する100人委員会』の委員が78名となりました。作家・映画監督の村上龍氏、京都大学iPS細胞研究所長の山中伸弥氏、プロ野球阪神タイガースの岩田稔氏、理化学研究所発生・再生科学総合研究センター副センター長の西川伸一氏、株式会社大塚製薬工場研究開発センター特別顧問の松本慎一氏ほか様々な分野の方々に“参加” いただいております、次年度から1型糖尿病の啓発も含めて本格的な活動展開となります。

予定していたJDRF (米国1型糖尿病研究基金) 調査は、上記のような様々な業務を少人数でこなさざるを得ない状況と理事長の体調不良が重なり次年度に延期せざるを得ませんでした。平成24年6月の渡米に向けて準備を進めています。

以上のほか、様々な寄付により研究が加速し、2025年には1型糖尿病が“治る” 病気になるよう取り組みを強化して行きます。

管理運営面では、常勤職員雇用や東京事務所開設を一旦中断し、外部委託を進め平成22年度に生じた大幅な赤字を改善することができました。また、イベントや電話相談に関わっていただいたボランティアは延86名と過去最高となり、今後の業務展開に明るい材料となりました。一方で、理事長は愛知県、事務局長は佐賀県で別に職業を持ちながらの活動が続いており、脆弱な組織運営体制の改善には至っていません。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
ネットワークの拡大・支援	<p>○地域患者・家族会の活性化のために2団体に助成金を各2万円交付した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つぼみの会愛知・岐阜 ・熊本つぼみの会 <p>○患者・家族会設立助成金の交付制度への申請はなかった。</p>	10月20日 通年	佐賀市 佐賀市	2人 1人	患者及びその家族等 1000人 —	40
情報収集提供・政策提言	<p>○20以上の患者支援策の実現に向けて、①1型糖尿病を身体障害者福祉法における内部障害として位置づけるよう、厚生労働大臣への要望書の提出や国の第17回難病対策委員会での資料配布等を行った。</p> <p>②内閣府の障がい者制度改革推進会議に対しては、日本難病・疾病団体協議会(JPA)を通して働きかけを行った結果、同会議総合福祉部の提言として障害者総合福祉法の骨格に「心身の機能の障害には、慢性疾患に伴う機能障害を含む」とされた。</p> <p>○配偶者控除制度の存続に向けて、日本難病・疾病団体協議会(JPA)を通して働きかけを行った結果、2013年度以降の検討課題となった(2012年度は配偶者控除制度は維持)。</p> <p>○介護職員によるインスリン注射が可能となる法整備に向けて、国の第17回難病対策委員会での資料配布を行った。</p> <p>○東京学芸大学と協働で作成した学校、幼稚園等での説明用パンフレット「教えて、りんりん! RinRin 1型糖尿病ってどんな病気?」を患者・家族等へ配布した。</p>	通年 通年 通年 通年	東京都 安城市 佐賀市 東京都 安城市 佐賀市 東京都 安城市 佐賀市 佐賀市	2人 2人 2人 2人	患者及びその家族等 60000人 60000人 60000人 20000人	4026

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報収集提供・政策提言	○(株)キャリアブレイン様と協働で教職員向けの1型糖尿病ビデオ作成に着手した。	2月～	東京都 福山市ほか	5人	患者及びその家族等 20000人	
	○株サンリオ様の協力を得て、ロシュ・ダイアグノスティックス様から提供いただいた血糖測定器等を入れる「キティちゃんポーチ」等を、患者・家族へ配布した。	通年	佐賀市	2人	60000人	
	○日本初のIDDM白書「1型糖尿病 [IDDM] レポート2011」を好評につき、500部増刷した。	8月	佐賀市	1人	60000人	
	○1型糖尿病と日本IDDMネットワークの活動内容を紹介したリーフレットを10,000部増刷した。	9月	安城市 佐賀市	2人	60000人	
	○カーボカウントとインスリンポンプのセミナーを引き続き開催した。参加者の過半数は医療関係者であった。	4月10日	福岡市	6人	79人	
		4月24日	さいたま市	9人	71人	
		8月28日	札幌市	8人	43人	
		9月4日	仙台市	10人	51人	
		11月13日	千葉市	10人	95人	
		12月4日	京都市	13人	88人	
		1月29日	岡山市	13人	100人	
		2月19日	名古屋市	11人	93人	
	3月11日	東京都	7人	60人		
○山形小児糖尿病サマーキャンプで岩永幸三副理事長が「東日本大震災における1型糖尿病患者の対応—日本IDDMネットワークの活動—被災現場の状況から見えてきた課題と対応—」と題して講演を行った。	7月16日	鶴岡市	1人	60人		
○その他、日本糖尿病学会年次学術集会、日本移植学会総会、CiRAシンポジウム、日本糖尿病教育・看護学会学術集会、国際医療協力シンポジウム米国研究製薬工業協会インフォメーションセッション、製薬協患者会セミナー等で情報収集や情報発信を行った。	通年	札幌市 仙台市 東京都 名古屋市 神戸市 佐賀市	4人	60000人		

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
調査研究	○1型糖尿病患者・家族等に必要な情報を網羅した「1型糖尿病 [IDDM] お役立ちマニュアルPart1~4を配布した。	通年	佐賀市	2人	患者及びその家族等 60000人	4498
	○東日本大震災を踏まえて「1型糖尿病 [IDDM] お役立ちマニュアルPart3 (災害対応編) の改訂作業を行った。	9月～	名古屋市 安城市 伊勢市 西宮市 佐賀市	4人	60000人	
	○「1型糖尿病 [IDDM] お役立ちマニュアルPart5 (患者・家族体験編) の発行に向けて作業を行った。	通年	東京都 大阪市 佐賀市ほか	9人	60000人	
	○患者の祖父母向けマニュアルを10,000部作成し、配布を開始した。	9月～	佐賀市 和水町	3人	60000人	
	○東日本大震災被災地の患者・家族会を訪問し、現状を把握した。	5月15日	福島市	2人	60000人	
	○JDRF (米国1型糖尿病研究基金) 調査に向けて準備作業を行った。	6月～	安城市 佐賀市	2人	60000人	
	○1型糖尿病の根治に向けて「ノーモア注射募金」活動の準備を行い、3月10日の日本IDDMネットワーク法人化10周年・1型糖尿病研究基金設立5周年記念シンポジウムを契機に本格的に活動を開始した。	10月～	東京都 安城市 佐賀市 大津町	3人	60000人	
	○主催するイベント・行事、電話相談でボランティアを呼びかけたところ、過去最高の86名の参加があったが、役員・事務局への参加までには至らなかった。	通年	全国各地	3人	60000人	

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
調査研究	○スタンフォード大学が開発した「セルフマネジメントプログラム」の普及に取り組む特定非営利活動法人日本慢性疾患セルフマネジメント協会への協力を行った。	通年	岡山市 佐賀市	2人	患者及びその家族等 60000人	
	○以下の調査・研究等に協力を行った。 ・「糖尿病女性のリプロダクティブヘルス [性と妊娠・出産に関する健康] に関する支援ネットワークシステムの構築」(田中佳代久 留米大学医学部看護学科母性看護学准教授) ・「子どもと家族を支援する病院と地域の連携に関する調査」(研究代表者: 中野綾美 高知県立大学看護学部小児看護学教授) ・難病対策のあり方についての患者団体緊急アンケート調査(日本難病・疾病団体協議会) ・東日本大震災に係る防災ボランティア活動の実態調査(内閣府)	通年	佐賀市ほか	2人	60000人	
シンポジウム ・患者家族交流会	東日本大震災で延期していた、日本IDDMネットワーク法人化10周年・1型糖尿病研究基金設立5周年記念シンポジウム『1型糖尿病 2025年「治らない」から「治る」へ』を開催した。 ・講演①「病気克服を目指すコミュニティーの形成」 西川伸一 理化学研究所発生・再生科学総合研究センター副センター長、幹細胞研究グループディレクター ・講演②「糖尿病治癒を目指して」 江島伸一 ノボ ノルディスク ファーマ株式会社 社務取締役	3月10日	東京都 (国際ファッションセンター)	27人	患者及びその家族等 312人	2794

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
シンポジウム ・患者家族交流会	<ul style="list-style-type: none"> ・講演③「1型糖尿病のインスリン治療における進歩—現状と未来への展望—」 川村智行大阪市立大学大学院医学研究科発達小児医学講師 ・講演④「再生医療の実現に向けた行政の取り組み」 板倉康洋文部科学省研究振興局ライフサイエンス課長 ・「サポーターからの応援メッセージ」 村上龍作家・映画監督、岩田稔阪神タイガース投手、棚田信子株式会社ドゾノ代表取締役 ・講演⑤「世界の糖尿病治療の最前線と1型糖尿病研究基金への期待」 松本慎一前米国ベイラー舘島細胞研究所ディレクター ・『1型糖尿病「治らない」から「治る」—“不可能を可能にする”—を応援する100人委員会』の決意表明 <p><シンポジウム関連行事></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「カーボカウントとインスリンポンプのセミナー」(再掲) 川村智行大阪市立大学大学院医学研究科発達小児医学講師 ・「持続血糖モニター(CGM)がもたらす糖尿病治療の新たな時代」 辻野大助東京慈恵会医科大学糖尿病・代謝・内分泌内科医師 ・「患者・家族座談会～1型糖尿病(IDDM)お役立ちマニュアルPart5(患者・家族体験編)作成に向けてのランチセッション～」 	3月11日	東京都 (国際ファッションセンター)	7人	60人	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「持続血糖モニター(CGM)がもたらす糖尿病治療の新たな時代」 辻野大助東京慈恵会医科大学糖尿病・代謝・内分泌内科医師 ・「患者・家族座談会～1型糖尿病(IDDM)お役立ちマニュアルPart5(患者・家族体験編)作成に向けてのランチセッション～」 			10人	48人	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「患者・家族座談会～1型糖尿病(IDDM)お役立ちマニュアルPart5(患者・家族体験編)作成に向けてのランチセッション～」 			10人	41人	
関係団体との連携	日本糖尿病学会、日本難病・疾病団体協議会(JPA)等と1型糖尿病患者の将来のために連携、協働等について意見交換等を行った。	通年	東京都 佐賀市	2人	患者及びその家族等 60000人	337

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
普及啓発	○橋本康志鳥栖市長も参加した、とす市民活動センター移転1周年記念イベント「いざという時の『市民力』」のパネルディスカッションで岩永幸三副理事長が、東日本大震災の患者・家族の対応も踏まえて、1型糖尿病の啓発を行った。	7月18日	鳥 栖 市	1人	患者及びその家族等 60000人	127
	○阪神タイガース岩田稔投手(1型糖尿病患者)の患者との試合観戦・交流会(阪神対中日戦、阪神対横浜戦)に協力し、マスコミ5社に取り上げられた。	7月26日	西 宮 市	3人	60000人	
		7月29日	西 宮 市	3人		
		7月31日	西 宮 市	3人		
	○村上龍氏(作家・映画監督)が編集長を務めるメールマガジンJMM(約10万人に配信)で井上龍夫理事長の連載「『治らない』から『治る』へ」がスタートした。	10月20日	東 京 都 安 城 市	1人	60000人	
11月16日						
12月7日						
1月3日 2月9日						
○フジテレビ「FNNスピーク」で「知られざる小児の糖尿病」という報道に協力を行った。	11月15日	東京都ほか	3人	60000人		
○読売新聞(夕刊)に「1型糖尿病に研究金」と題して、当法人の活動や2型糖尿病との相違が掲載された。	2月2日	東京都ほか	1人	60000人		
療育相談	○電子メール(68件)、相談電話(81件)、面談(4件)、ホームページ(126,628件)等を通して、様々な相談等に対応した。	通年	東 京 都 大 磯 町 安 城 市 木津川市 佐 賀 市 和水町ほか	5人	患者及びその家族等 60000人	834
会報発行	会員の情報交換等のため、会報を2回、各4000部発行した。	6月30日 12月29日	佐賀市ほか	6人	患者及びその家族等 60000人	499

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
東日本大震災対策	<p>○発生の翌日(3月12日)からホームページでの情報提供及び被災地からの個別の要請に応じて、医療機関の紹介並びに血糖測定器、グルコースサプライ、グルコレスキューの送付等を行った。</p> <p>○(株)モンベル様が行う東日本大震災の被災地支援「アウトドア義援隊」に、1型糖尿病に関するピラ(インスリンや血糖測定器等の相談窓口を記載)配布を行ってもらった。</p> <p>○「被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト」(通称:つなプロ)に参加し被災地の糖尿病患者の情報を入手した。</p> <p>○東日本大震災における被災者支援活動に携るNPO、企業等約700団体による災害支援ネットワーク組織である東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)に加盟し、日々の現地情報を入手した。</p> <p>○5月及び6月に岩手県、宮城県、福島県の被災地に入り、患者、家族、行政、医療機関、企業、マスコミ等からの情報収集を行った。</p> <p>○5月28日に名古屋市で東日本大震災に関する緊急報告・検討会を開催した。</p> <p>○被災地の1型糖尿病患者支援活動に寄付を募ったところ全国各地から136件、801,176円の寄付が寄せられた。</p> <p>○東日本大震災の教訓を伝えるべく「1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアルPart3(災害対応編)別冊・東日本大震災特集」(仮称)の作成準備に着手した。</p>	通年	釜石市 大船渡市 仙台市 南三陸町 福島市 伊達市 東京都 名古屋市 安城市 伊勢市 西宮市 佐賀市 大津町ほか	6人	患者及びその家族等 60000人	209

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
東日本大震災対策	○アトピー・アレルギー性疾患患者・家族を支援する特定非営利活動法人アトピッ子地球の子ネットワークと大規模災害時に使用する協働ポスター（相談窓口等を掲載）の作成に着手した。					
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○1型糖尿病の治療につながるあらゆる先進的な研究を支援する「1型糖尿病研究基金」の第4回助成金の公募を開始した。 ・募集期間：2月17日～4月27日 ・助成総額：200万円（2件助成予定）	2月17日～	全国各地	2人	患者及びその家族等 60000人	302
	○阪神タイガースの岩田稔投手から1勝10万円（計90万円）が当研究基金に寄付され、スポーツ新聞各紙に取り上げられ、1型糖尿病の啓発にも繋がった。	12月3日	西宮市	2人	60000人	
	○参加費のうち1人あたり500円を研究基金に充てることを明示して全国各地でセミナーを開催した。 寄付金額：266,000円	4～2月	全国各地	4人	60000人	
	○全国各地で開催したセミナーで募金活動を行った。 募金総額：137,661円	通年	全国各地	6人	60000人	
	○コカ・コーラグループ各社様及び（株）伊藤園様のご協力により、難病・慢性疾患患者支援自動販売機を設置することとし、飲料売上額の一部が当研究基金へ寄付された。 設置目標台数：100台 実績台数：3台 寄付総額：66,960円	通年	東京都 千葉県 佐賀市	1人	60000人	

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○インターネットの保険代理店DOZOから自動車保険に加入し、無事故で過ごせたら、保険加入者の意向により1契約あたり年間最大1200円を株式会社ドウゾ様から寄付された。 寄付総額：32,000円	通年	全国各地	2人	患者及びその家族等 60000人	
	○エクセルエイド少額短期保険株式会社様の「ふおーりっくぷろぐらむ」(インターネットからの保険契約1件につき一定額を寄付)から保険加入者の意向により寄付された。 寄付総額：8,000円	通年	全国各地	1人	60000人	
	○有限会社プレジャス・アイ様から病気や緊急連絡先などの情報を伝えるためのアクセサリーMedical ID(医療識別票)、商品名MEDIC INFOの売り上げの10%が寄付。 寄付総額：無(24年度に1回目の寄付有)	通年	全国各地	1人	60000人	
	○認定NPO法人(寄付者に税制優遇措置有り)の基準(年間3000円以上の寄付者が100人以上)を満たすために「3000円募金」のお願いを主催イベントで実施した。 寄付者数：108人 寄付総額：443,500円	11月～	全国各地	2人	60000人	
	○毎月定額(1口2000円：2000円はひと月のインスリン注射費用の概ね半分の額)で研究基金のサポートいただくノーモア注射マンスリーサポーター制度を開始した。	3月～	全国各地	1人	60000人	
	○(株)バリューブックス様と協働で家庭や職場に眠っている古本を提供いただく「ノーモア注射～希望の本プロジェクト」を開始した。	3月～	全国各地	1人	60000人	

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計)	○家庭や職場にある書き損じ・未使用のハガキを提供いただく「書き損じハガキプロジェクト」を開始した。	3月～	全国各地	2人	患者及びその家族等 60000人	
	○ジャスト・ギビング・ジャパンのWEBサイトで研究基金への寄付を呼びかける「“ノーモア注射2025”プロジェクト」を開始した。	3月～	安城市 佐賀市 大津町	3人	60000人	
	○1型糖尿病「治らない」から「治る」－“不可能を可能にする”－を応援する100人委員会の委員数が78名となった。 ＜100人委員会の役割＞ ・不可能を可能にするこの取り組みを“社会に発信”する。 ・不可能を可能にするこの取り組みの“戦略に助言”する。 ・不可能を可能にするこの取り組みに“参加”し患者と家族に勇気を与える。	通年	東京都 安城市 佐賀市ほか	2人	60000人	
	○研究基金の趣意書並びに収支及び助成実績を記載したパンフレットを5000部増刷した。	2月	安城市 佐賀市	2人	60000人	

(2) その他の事業 該当なし

(3) その他

- 総会：通常総会を5月28日名古屋市で開催
- 理事会：第18回理事会を5月28日名古屋市で開催
第19回理事会を11月5日佐賀市で開催
第20回理事会を3月31日熊本県大津町で開催

平成23年度一般会計収支計算書

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで
(単位:円)

科 目	予算額(A)	決算額(B)	差 異(B)-(A)	備 考
I 収入の部				
1 会費収入	1,614,000	1,581,000	-33,000	
・正会員会費収入	510,000	474,000	-36,000	
・賛助会員会費収入	324,000	324,000	0	
・その他の会員会費収入	780,000	783,000	3,000	個人会員
2 寄付金収入	9,700,000	10,721,355	1,021,355	
・一般寄付金収入	9,700,000	10,721,355	1,021,355	
3 助成金等収入	6,000,000	8,431,100	2,431,100	
・助成金収入	5,000,000	5,000,000	0	全日本社会貢献団体機構、メトロニック財団
・負担金収入	1,000,000	3,431,100	2,431,100	イベント参加費
4 繰出金収入	0	0	0	
・東京事務所開設準備積立金取崩収入	0	0	0	
5 雑収入	77,476	543,037	465,561	
・受取利息	476	5,352	4,876	
・雑収入	77,000	537,685	460,685	講師謝金、シンポジウム延期に伴う会場費返金
当期収入合計(A)	17,391,476	21,276,492	3,885,016	
前期繰越収支差額	108,524	108,524	0	
収入合計(B)	17,500,000	21,385,016	3,885,016	
II 支出の部				
1 事業費	12,900,000	13,362,017	462,017	
・ネットワークの拡大・支援	200,000	40,000	-160,000	患者・家族会助成
・情報収集提供・政策提言	3,000,000	4,025,507	1,025,507	カーボカウントセミナー(9回)、IDDM白書増刷
・調査研究	5,600,000	4,497,800	-1,102,200	マニュアル本パート5発行準備、ノーマア注射募金
・シンポジウム・患者家族交流会	600,000	2,793,593	2,193,593	延期していた法人化10周年記念シンポジウム
・関係団体との連携	250,000	336,841	86,841	
・普及啓発	250,000	126,530	-123,470	
・療育相談	400,000	833,993	433,993	HPリニューアル
・会報発行	600,000	498,516	-101,484	2回発行
・東日本大震災対策	2,000,000	209,237	-1,790,763	緊急報告・検討会、被災地調査
2 管理運営費	4,500,000	3,838,537	-661,463	
・人件費	0	115,000	115,000	
・管理費	4,500,000	3,723,537	-776,463	業務委託、電話料
3 繰入金支出	0	0	0	
・1型糖尿病研究基金特別会計繰入金支出	0	0	0	
4 予備費	100,000	0	-100,000	
・予備費	100,000	0	-100,000	
当期支出合計(C)	17,500,000	17,200,554	-299,446	
当期収支差額(A)-(C)	-108,524	4,075,938	4,184,462	
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	4,184,462	4,184,462	マニュアル本パート5及びパート3改訂版未完成

平成23年度1型糖尿病研究基金特別会計収支計算書

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで
(単位:円)

科 目	予算額(A)	決算額(B)	差 異(B)-(A)	備 考
I 収入の部				
1 寄付金収入	1,400,000	2,550,321	1,150,321	
・1型糖尿病研究基金寄付金収入	1,400,000	2,550,321	1,150,321	岩田稔投手、イベント
2 繰入金収入	0	0	0	
・一般会計繰入金収入	0	0	0	
3 雑収入	420	247	-173	
・受取利息	420	247	-173	
当期収入合計(A)	1,400,420	2,550,568	1,150,148	
前期繰越収支差額	1,711,580	1,711,580	0	
収入合計(B)	3,112,000	4,262,148	1,150,148	
II 支出の部				
1 事業費	2,000,000	0	-2,000,000	
・1型糖尿病研究助成金	2,000,000	0	-2,000,000	
2 管理運営費	250,000	301,829	51,829	
・人件費	0	0	0	
・管理費	250,000	301,829	51,829	研究基金パンフレットの増刷
3 予備費	12,000	0	-12,000	
・予備費	12,000	0	-12,000	
当期支出合計(C)	2,262,000	301,829	-1,960,171	
当期収支差額(A)-(C)	-861,580	2,248,739	3,110,319	
次期繰越収支差額(B)-(C)	850,000	3,960,319	3,110,319	24年度研究助成金(2件)へ

平成23年度収支計算書総括表

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで
 特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク
 (単位:円)

科 目	合計	一般会計	1型糖尿病研究 基金特別会計	備 考
I 収入の部				
1 会費収入	1,581,000	1,581,000	0	
・正会員会費収入	474,000	474,000	0	
・賛助会員会費収入	324,000	324,000	0	
・その他の会員会費収入	783,000	783,000	0	
2 寄付金収入	13,271,676	10,721,355	2,550,321	
・一般寄付金収入	10,721,355	10,721,355	0	
・1型糖尿病研究基金寄付金収入	2,550,321	0	2,550,321	
3 助成金等収入	8,431,100	8,431,100	0	
・助成金収入	5,000,000	5,000,000	0	
・負担金収入	3,431,100	3,431,100	0	
4 繰入金収入	0	0	0	
・一般会計繰入金収入	0	0	0	
5 繰出金収入	0	0	0	
・東京事務所開設準備積立金取崩収入	0	0	0	
6 雑収入	543,284	543,037	247	
・受取利息	5,599	5,352	247	
・雑収入	537,685	537,685	0	
当期収入合計(A)	23,827,060	21,276,492	2,550,568	
前期繰越収支差額	1,820,104	108,524	1,711,580	
収入合計(B)	25,647,164	21,385,016	4,262,148	
II 支出の部				
1 事業費	13,362,017	13,362,017	0	
・ネットワークの拡大・支援	40,000	40,000	0	
・情報収集提供・政策提言	4,025,507	4,025,507	0	
・調査研究	4,497,800	4,497,800	0	
・シンポジウム・患者家族交流会	2,793,593	2,793,593	0	
・関係団体との連携	336,841	336,841	0	
・普及啓発	126,530	126,530	0	
・療育相談	833,993	833,993	0	
・会報発行	498,516	498,516	0	
・東日本大震災対策	209,237	209,237	0	
・1型糖尿病研究助成金	0	0	0	
2 管理運営費	4,140,366	3,838,537	301,829	
・人件費	115,000	115,000	0	
・管理費	4,025,366	3,723,537	301,829	
3 繰入金支出	0	0	0	
・1型糖尿病研究基金特別会計繰入金支出	0	0	0	
・東京事務所開設準備積立金支出	0	0	0	
4 予備費	0	0	0	
・予備費	0	0	0	
当期支出合計(C)	17,502,383	17,200,554	301,829	
当期収支差額(A)-(C)	6,324,677	4,075,938	2,248,739	
次期繰越収支差額(B)-(C)	8,144,781	4,184,462	3,960,319	

平成23年度貸借対照表総括表

平成24年3月31日現在
 特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク
 (単位:円)

科 目	合計	一般会計	1型糖尿病研究 基金特別会計
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	13,943,193	9,982,874	3,960,319
未収会費	0	0	0
未収入金	1,100,000	1,100,000	0
流動資産合計	15,043,193	11,082,874	3,960,319
2 固定資産			
固定資産合計	0	0	0
資 産 合 計	15,043,193	11,082,874	3,960,319
II 負債の部			
1 流動負債			
未 払 金	676,305	676,305	0
前 受 金	92,500	92,500	0
短期借入金	0	0	0
預 り 金	41,107	41,107	0
流動負債合計	809,912	809,912	0
2 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負 債 合 計	809,912	809,912	0
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産	7,908,604	6,197,024	1,711,580
当期正味財産増加額	6,324,677	4,075,938	2,248,739
正味財産合計	14,233,281	10,272,962	3,960,319
負債及び正味財産合計	15,043,193	11,082,874	3,960,319

平成23年度財産目録

平成24年3月31日現在
 特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク
 (単位:円)

科 目 ・ 摘 要	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
現金 現金手許有高(一般会計)	159,631		
現金 現金手許有高(特別会計)	20,612		
普通預金 みずほ銀行佐賀支店(一般会計)	557,480		
普通預金 みずほ銀行佐賀支店(特別会計)	3,173,957		
普通預金 百五銀行員弁支店(一般会計)	0		
普通預金 三井住友銀行佐賀支店(一般会計)	2,291,753		
郵便貯金 福岡貯金事務センター(一般会計)	520,956		
郵便貯金 福岡貯金事務センター(特別会計)	765,750		
郵便貯金 郵便貯金総合通帳・ばるる(一般会計)	447,491		
定額貯金(3年) ゆうちょ銀行(一般会計)	1,000		
定期預金(1年) みずほ銀行佐賀支店(一般会計)	3,003,600		
定期貯金(1年) ゆうちょ銀行(一般会計)	3,000,963		
未収会費(一般会計)	0		
未収入金(一般会計)	1,100,000		
流動資産合計		15,043,193	
2 固定資産			
固定資産合計		0	
資 産 合 計			15,043,193
II 負債の部			
1 流動負債			
未 払 金(一般会計)	676,305		
未 払 金(特別会計)	0		
前 受 金(一般会計)	92,500		
預 り 金(一般会計)	41,107		
短期借入金(一般会計)	0		
流動負債合計		809,912	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負 債 合 計			809,912
正 味 財 産			14,233,281

注) 定額貯金、定期預金及び定期貯金の合計額6,005,563円が東京事務所開設準備積立金である。

前事業年度の役員名簿

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク

役名	氏名	住所又は居所	就任期間	報酬を受けた期間
理事	井上 龍夫	愛知県安城市	23年4月1日 ～24年3月31日	該当なし
理事	岩永 幸三	佐賀県佐賀市	23年4月1日 ～24年3月31日	該当なし
理事	山本 康史	三重県伊勢市	23年4月1日 ～24年3月31日	該当なし
理事	後藤 昌史	宮城県仙台市	23年4月1日 ～24年3月31日	該当なし
理事	大村 詠一	熊本県菊池郡大津町	23年4月1日 ～24年3月31日	該当なし
監事	古賀 敏久	福岡県久留米市	23年4月1日 ～24年3月31日	該当なし
理事	中村 嘉克	佐賀県佐賀市	23年5月28日 ～24年3月31日	該当なし
理事	山上 雅晴	千葉県千葉市	23年4月1日 ～23年5月28日	該当なし
理事	京野 文代	岡山県岡山市	23年4月1日 ～23年5月28日	該当なし
理事	尾白登紀子	神奈川県中郡大磯町	23年4月1日 ～23年5月28日	該当なし

前事業年度の社員のうち10人以上の者の名簿

平成24年3月31日現在

特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク

名 称	住 所 又 は 居 所
けやきの会	宮城県名取市
特定非営利活動法人秋田県1型糖尿病の会	秋田県秋田市
特定非営利活動法人補食の会	富山県砺波市
大阪くるみの会	大阪府茨木市
大阪杉の子会	大阪府大阪市
岡山つぼみの会	岡山県岡山市
広島もみじの会	広島県広島市
特定非営利活動法人DMユース佐賀	佐賀県佐賀市
特定非営利活動法人ことのうみの会	長崎県長崎市
DM風の会	熊本県玉名郡和水町